第２回北里地区の学校を考える会で提出された質問と回答

No.	質問	市の考え方
1	北里の地域の特色とは何か？	北里地区の特色は、豊かな自然環境に加え、地域や学校同士のつながりが強いことです。北里地区は、かつて１小１中であった歴史的な背景や地域の結び付きが今も受け継がれており、現在も北里小学校・小木小学校・北里中学校の３校が、PTA活動を中心とした「３校Ｐ」の取組や学校間交流などを通じて連携を図っています。こうした取組により、子どもたちは地域の方々との関わりや異なる学年・学校の仲間との交流を通して学ぶ機会に恵まれています。地域全体で子どもたちを支え育てようとする風土が根付いていることが、北里地区の大きな魅力であると考えています。
2	住民合意をどうつくっていくのか？	学校を考える会をはじめ、今後、ワークショップや説明会の場を設け、学校再編の必要性や目指す教育の姿について説明させていただく予定です。
3	小牧で昨年やった夢チャレンジはどうだったか、この教授は知っていて言っているのかと感じた。	令和７年度から開始した「こまき『夢☆チャレンジ』科」では、児童生徒が自らテーマを設定し探究的な学習に取り組んでおります。子どもたちの主体的な学びや課題解決力の育成につながる取組として、各学校で着実に実践が進められております。 加納教授にも教職員研修等で、小牧市内の探究的な学習の推進において支援していただいております。
4	加納先生の講演の中で探究には知識を要するとのことでした。今実施のＭｙ探究では全体的に探究のための知識が不足している様に思われます。個々の生徒・児童の目標にした探究の問いに対して教員が対応できるのか疑問です。探究の芽がみつけられるのか、見つける知識が育くまれる教育があるか？みつけた探究の目を育くめる教育体制なのか？	ご指摘のとおり、探究的な学びでは「問い」を見つける力を育てることが重要です。「こまき『夢☆チャレンジ』科」では、地域や社会との関わりの中で子どもたちが自ら興味や課題を見つけられるよう取り組んでおります。 また、教員は子どもたちの問いを引き出し、探究の過程を支援する役割が求められるため、子どもたち一人一人の探究の芽を育てる教育体制の充実を引き続き進めてまいります。
5	小中とそれぞれ担任制、教科担任制となっているが小中一貫となった場合どうなるのか。	小中一貫校となった場合でも、担任制や教科担任制のあり方について直ちに変更を決定しているものではありません。今後、子どもたちの発達段階や教育効果を十分に踏まえながら、他市町の先進事例も研究し、検討してまいります。 なお、小中一貫校では、小学校高学年における教科担任制の導入や、中学校の教員が小学校で授業を行う「乗り入れ指導」を実施している事例もあります。こうした取組は、専門性の高い授業や小中の円滑な接続につながるメリットがあるとされています。 北里地区においても、今後、他市町の事例や教育効果を研究しながら、教科担任制や乗り入れ指導の実施の有無を含め、子どもたちにとってより良い教育環境となるよう検討してまいります。
6	小中を一つにするメリットですが、本当に今の体制ではできないことなのでしょうか？多様な人との関わり＝小中一貫に話が進んでいるようですがこれは≠ではないですか？体制管理の難しさもあるためこんな学校内容にする（できる）を現役の先生達とも含めて計画をつくるべきではないのでしょうか？（一つにすれば多様な学びができそう）で話を進めるのはちょっと無理があるような、すでにあるのならばそれが知りたい。	ご質問のとおり、小中一貫校で実施が期待される取組の中には、現在の小学校・中学校が連携を深めることによって実施可能なものもあります。そのため、「小中一貫校でなければできない」という考え方ではなく、「小中一貫校とすることで、より継続的かつ効果的に実施できるか」という視点で検討を進めています。 例えば、多様な人との関わりや異学年交流については、現在の学校においても実施することは可能です。しかし、小中一貫校では、9年間を見通した教育課程の編成や日常的な交流、教員の連携を行いやすくなることで、こうした取組をより計画的・継続的に進めることが期待されています。 一方で、ご指摘のように、学校規模が大きくなることによる運営上の課題や、教員間の連携体制など、十分に検討すべき事項もあると認識しております。 今後は、どのような教育を実現したいのかを明確にしながら、現場の教員の意見も踏まえつつ、北里地区の子どもたちにとってどのような教育環境が望ましいのかを検討し、具体的な教育内容や学校運営のあり方について整理してまいります。
7	豊かな教育内容、地域と結びついた教育実践などとてもすばらしいと思ったがそれが小中一貫校でないと実践できないのか理解できなかった。小中一貫校でなくてもやれるのではないか？	ご指摘のとおり、地域と結びついた教育活動は、小中一貫校でなければ実施できないものではありません。現在の小学校や中学校でも、それぞれの特色を生かした取組が行われています。 しかし、小中一貫校では９年間を見通して教育活動を計画できるため、それらの取組をより系統的・継続的に行い、学びの効果を高めることができます。小中一貫校は新しい取組を行うためではなく、これまでの優れた教育実践をさらに充実・発展させるための仕組みです。
8	小木小から北里小・中まで1.4㎞と説明だが最長で歩く子どもが1.4㎞なのか？それより長い距離を歩いて通う子どもはいないのか？	小木小学校から北里中学校までの距離が約1.4㎞となります。
9	合瀬川に架かる5ヶ所の橋を基本に通学路をどの様に考えているのか。	学校再編後の通学路につきましては、現時点では具体的なルートを決定しているものではありません。 今後、学校や関係機関と協議を行い、安全性を最優先に検討してまいります。また、必要に応じて通学路の点検や安全対策についても検討してまいります。
10	スクールバスは用意されるのか？（対象範囲はどの程度になるのか）小中の終業時刻に差があり、更に部活動もあり、帰宅の条件が違います。何便のスクールバスを運行する事が出来るのか、どれだけの経費が掛かるのか、長年継続することが出来るのか。	学校再編に伴い、通学距離が長くなる児童が多くなるため、通学距離や通学時間に加え、交通量、防犯面、危険箇所の有無などを総合的に検証し、必要に応じて通学路の見直しや安全対策の充実していきたいと考えております。 なお、スクールバスの導入については、現時点で具体的な計画はありませんが、今後、再編計画の具体化に合わせて、対象となる児童数や通学距離、運行経費、運行の継続性などを踏まえながら、必要な通学支援策について検討していきたいと考えています。
11	小学校から中学校へ進学するという変化が無くなり、気持ちの切り替えが出来なくなるのではないか。（進学に対し、緊張と挑戦）	義務教育９年間を前期・中期・後期に区分し、発達段階に応じた節目を設けることで、子どもたちが新たな目標を持ちながら成長できるよう工夫したり、特別活動や探究的活動等を充実させることにより自主性やリーダーシップを育むなど、小中一貫教育において指摘される課題にも、十分配慮しながら、小中一貫教育の導入に向けた検討を進めていきたいと考えています。
12	小学6年生は小学最高学年としての責任感と自覚が生まれるが、その機会を失うのではないか。	
13	（小中一貫教育について）小学5年生より従来の教育プログラムが変わるが、児童への負担が大きくならないか。又、教師は対応可能か。教師の絶対数が減ることになるが大丈夫か。	子どもたちの発達段階を十分に踏まえ、学習面や生活面に過度な負担が生じないよう配慮してまいります。 また、教員の対応についても、子どもたちの成長を支えるために必要な指導体制を確保することが重要であると考えております。小中一貫校では、異なる校種の教員が連携しながら指導に当たることが期待されますが、そのための体制づくりや運営方法についても十分検討してまいります。 教員数については、学校規模などを踏まえて決まっていくことになります。 いずれにしましても、子どもたちにとってより良い教育環境を実現することを第一に考え、児童への負担や教員の指導体制にも十分配慮してまいります。
14	校舎の建て直し時の体育についてです。校庭に建てるとの事ですがその間どこで活動するのか。南小は南スポーツセンター米野小は城見公園とありましたが北里小校区には広い場所がないように思います。その見当について聞かせてもらいたい。	現時点では施設配置や工事手法、工事期間中の学校運営方法などは決定しておらず、体育の授業をどこで行うかについても、今後の検討事項となります。 今後、基本構想・基本計画の策定や設計を進める中で、児童生徒の教育活動にできる限り支障が生じないよう、校内で確保できるスペースの活用に加え、近隣の公共施設や運動施設の活用の可能性も含めて検討してまいります。
15	現状は北里小学校と北里中学校は近いが隣接しているわけではない。交通量の多い道路により切り離された場所にある。児童生徒の移動には大きな危険が想定されるが1.000人超の児童生徒の移動方法について検討されているのか。	ご指摘のとおり、現在の北里小学校と北里中学校は近接しているものの隣接している状況ではなく、その間には交通量の多い道路もあることから、児童生徒が移動する際の安全確保は重要な課題であると認識しております。 一方で、現時点においては、教育活動における児童生徒の具体的な移動方法や運用について決定しているものではありません。今後、基本構想・基本計画の策定を進める中で、学校敷地の配置や施設計画、教育活動の内容などを踏まえながら、児童生徒の安全を最優先に、移動の必要性や移動経路、安全対策について検討してまいります。
16	校舎とグラウンドの移動時間ロスが大きな問題になると思うがどの様に考えるか。	